

令和元年度 後期学校関係者評価書

令和2年1月16日（木）

南アルプス市立白根源小学校関係者評価委員会

記載責任者 教頭 清水浩雄

【第3回 学校関係者評価委員会】

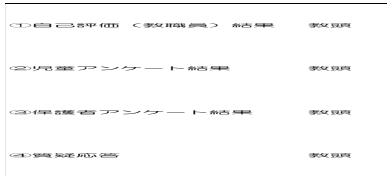
1 実施日：令和2年1月16日（木） 12:20より

2 会 場：南アルプス市立白根源小学校 会議室

3 学校関係者評価委員

前源地区連合自治会会長 塩谷 正夫	主任児童委員 矢崎 栄子	元PTA会長 浅川 久司
元PTA役員 中込 美香	元PTA役員 米山 薫	源地区連合自治会会長 深澤 秀春
源地区育成会長 小澤 順司	PTA会長 宇高 俊介	
校長 加賀美 敏	教頭 清水 浩雄	教務主任 上野 真美

4 次 第

進行・記録：教務主任	
1 はじめのことば	教務主任
2 学校長あいさつ	校長（加賀美）
3 学校評価結果及び概要説明	
	
4 意見交換(参加者からの提言等)	座長：教務主任
5 おわりのことば	教務主任

5 協議内容・意見

(1)令和元年度 後期学校関係者評価書より

① 後期 自己評価 全体評価

評価は、前期評価同様

Aよくあてはまる Bややあてはまる Cあまりあてはまらない Dまったくあてはまらない である。

全体を見てみると、前期同様、集計結果からは、全ての項目に対して、肯定的な意見が大半を占めている。2学期以降もブランドデザインを意識して学校教育目標に近づけるように取り組むことができたと考え。

A+Bの肯定的評価おおむね良いので、A回答に焦点を当ててみた。

【A回答が80%以上の項目】

- 1「学校教育目標や指導重点を意識し、教育活動を進めている。」
- 3「校務分掌に基づき、組織的に学校運営を進めることを心がけている。」
- 6「教育公務員として危機管理（防災・防犯・個人情報・綱紀保持）を意識し、教育活動等に当たっている。」
- 9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」
- 11「家庭との連携を図り、児童の学習習慣が確立するよう配慮している。」
- 12「規範意識を育むための指導を行い、全校児童が相互に協力し合える風土づくりを心掛けている。」
- 14「いじめ・不登校・問題行動の未然防止に努めるとともに、万が一の場合は、見逃さず適切に対処している。」
- 15「保護者・地域に対して誠実に関わり、保護者・地域及び関係機関との連携・協力体制の構築に努めている。」 の8項目であった。

【10パーセント以上の伸びのあった項目】

6、9、10、12、14 であった。このうち6、9、12、14の4項目はA回答が80%以上で、かつ、1学期比100%の伸びであった。日々一生涯懸命教育活動にあたっている結果と言える。

項目10「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくり（思考力・判断力・表現力、主体的学習態度、学習意欲、言語活動、主体的で対話的で深い学びの視点）に努めている。はA回答が80%を下まわってはいるが、1学期比100%以上伸びた項目である。項目9「基礎・基本の確実な定着に対して、きめの細かい指導をしている。」の1学期比10.9%の伸び、と合わせ、校内研究で、理論研究や授業での実践、授業後の研究を重ねてきた成果が表れていると言える。3学期も、やまなしスタンダードのもと、学び合いの学習に取り組み、さらに自分の考えを深め広げさせるような、「わかる授業、楽しい授業づくり」を進めていきたい。

項目12、14でA回答が増加していることから、教職員が児童に寄り添い、一人一人の実態に沿った対応を常に考えて指導に当たっていることが表れている。

【A回答が60%台の項目】

項目2「マネジメントサイクル（PDCA）で、常に改善を図ろうとしている。」であった。しかし1学期と比べ、11%A回答が伸びている。マネジメントサイクルでの活動は常に試行錯誤が必要で大変であるが、その重要性を認識し、計画、実行、チェック、改善のサイクルが定着してきて、向上してきていると考えたい。

細かく見ると、A回答が70%で1学期より下がった項目がある。

項目7「チーム源として、職員が共通理解のもと、指導に努めている。」で、A回答が11.2%減であった。チーム源として共通理解を再確認しAを高めた。

② 後期児童アンケート 全体評価

1学期同様、18項目中全てが肯定的な意見であり、そのうち前期よりも肯定的で数値が2%以上あがった項目は

- 4「学校の決まりや約束が守れていますか。」
- 5「家で家庭学習（自主学習 ・ 宿題）をしていますか。」
- 6「クラスになかよく遊ぶ友だちがいますか。」
- 7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
- 8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」
- 10「先生はやってよいこと・悪いことをしっかり教えてくださいますか。」
- 11「先生はがんばったことをみとめてくれますか。」
- 13「家の人とあいさつをしていますか。」
- 15「朝ごはんを食べて学校にきますか。」
- 16「家の人と学校でのことを話していますか。」
- 18「わかばのお友だちと 仲良く遊ぶことができましたか。」

であった。このことから、子どもたちが毎日しっかり学び、過ごしていることがわかる。

反面、C+Dの否定的回答が多い項目を見ておくと、

3「授業中に質問や意見をいいますか。」
7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
17「家の人とさいがい（地震・台風・火事など）が起こったときのことを話していますか。」
がみられた。授業中の発言は、校内研究とも連動させて、粘り強く取り組んでいきたい。他学年との遊びは、児童会活動に、引き続き効果を期待したい。また、2学期に行った、Q-U(楽しい学校生活を送るためのアンケート)分析による改善策を進めていきたい。災害については、避難訓練時に、家でも話題になるよう指導していきたい。

今回、分析として新たに、1「学校が 楽しいですか。」の項目の、AB回答群とCD回答群を比較してみた。以下の項目で、A回答が、AB群は多く、CD群は少ない特徴が見られた。

2「学校の授業がわかりますか。」
3「授業中に質問や意見をいいますか。」
6「クラスになかよく遊ぶ友だちがいますか。」
7「学校ではほかの学年のお友だちと遊ぶことがありますか。」
8「こまったときに話のできる友だちがいますか。」
9「先生はこまったときに話を聞いてくれたり、きちんと対応してくれますか。」
11「先生はがんばったことをみとめてくれますか。」
13「家の人とあいさつをしていますか。」
14「地域の人と出会ったらあいさつをしていますか。」
16「家の人と学校でのことを話していますか。」
このことを踏まえ、質問1のCD回答群に、より細かい対応を実行していく。

③ 保護者アンケート全体評価

保護者アンケート結果からはほぼ肯定的な結果が得られた。13（83.3%）と16（75.5%）を除き全て85%以上の肯定的な意見で占められている。

肯定的ではない（C+D）意見において10%以上を占める項目を挙げてみると、

- 11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」11.8%
- 12「子どもは、家庭学習（自主学習、宿題等）によく取り組んでいる。」13.7%
- 13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」16.7%
- 16「家庭学習（自主学習・宿題）の取組に、関わっている。」24.5%
- 18「ゲームをする時間、テレビを見る時間、外出時などにルールを決めて取り組んでいる。」12.7%
- 20「子どもの様子の変化に注意を払い、すぐに先生に相談している。」15.7%

以上の6項目であった。

- 11「子どもは、学校の様子をよく話してくれている。」
- 12「子どもは、家庭学習（自主学習、宿題等）によく取り組んでいる。」
- 13「子どもは、家でも地域でもよくあいさつをしている。」

については、児童アンケートにも同じ項目があり、児童の方では1学期より上がってきている。

家庭学習においては、項目16「家庭学習（自主学習・宿題）の取組に、関わっている。」CD回答24.5%も踏まえ、学校から家庭に、家庭学習のヒント、手立てなど、伝える情報を工夫し、家庭学習に、よりスムーズにかかわってもらえるよう働きかけていきたい。

また、「早寝早起き朝ごはん」、「ゲームのルール」「学校のお便りに目を通す」「地域でのあいさつ」などの項目もA回答が少なかった。あいさつは地域のあいさつ運動の取組もあり、児童会でも積極的に取り組んでいるが、学校でソーシャルスキルを意図的に子どもたちに指導すると同時に、保護者にも呼びかけていく。

(2) 意見交換(○～参加者からの質問・提言、※～学校返答)

○御苦労いただいている。教師も個性を生かして指導していただければよい。ほめて自信を付けさせてもらいたい。人生の支えのように心に残るものです。

※個々の児童理解に努め、できたことを認め、自己有用感を育てることを大切に考えています。

○ニュースで、宿題を出さない日は、親子で考えて課題に取り組んでいる学校を見た。自主学習の課題の設定が大変だが、がんばっていただきたい。

※宿題は大きく分けると、その日に授業で学んだ復習と、自主学習の2種類がある。自主学習に対して支援しているが、子どもによって取組に差がある。自主学習の内容を授業に活かすこともしている。

○やる気のスイッチがいつ入るか・その機会を与えたい。自ら考える能力以前に、その基礎として、低学年など特に、基礎的な理解習得が大切。

※学校で基本をしっかり指導したい。中学校以降やる気にスイッチが入った場合、小学校の学習内容が必要になる。

○楽しいことが心に残り、家庭での会話も弾む。友だち関係が楽しさの比重が大きい。教室でぼつんとしているなど、子どもの理解、対策を。
○学習面でもわかれば学校が楽しいだろう、学習面でも対策を。
○TVを付けずに夕飯を食べたことがあるが、会話が弾みました。
○人間関係はたいがい好き嫌いはある。これを前提に、その中で折り合いをつけていけることが大切。
○地域でのあいさつ、大人がしても返ってこないときがある。学校と地域で連携して取り組みたい。

※全校児童の顔と名前が一致する学校スケールを生かしたい。トラブルは、長引くと解決しにくい、しこりの残る危険性もあるので、早く解決するよう心掛けている。校内研究で、「わかち合う」ということをテーマとしている。意見の多様性を大切にして、学び合いの授業に取り組んでいる。

まとめ

(1) グランドデザインに基づいた情報等の共有を徹底

- ・立場、考え方、やり方の違いもあるが、グランドデザインに基づき、たくさん対話し、気持ちを引き締めて共通理解に努め、専門性の研鑽と、きめ細かい指導に当たっていく。学校運営に関する方針や子どもの情報等の共有を徹底する。

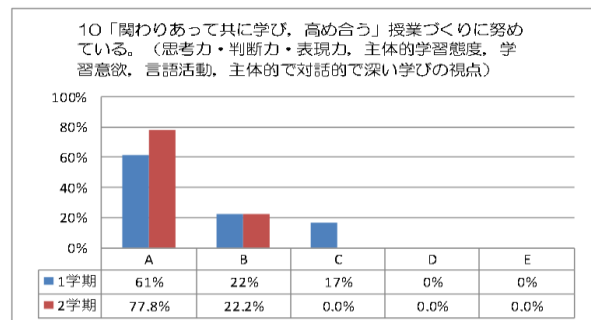
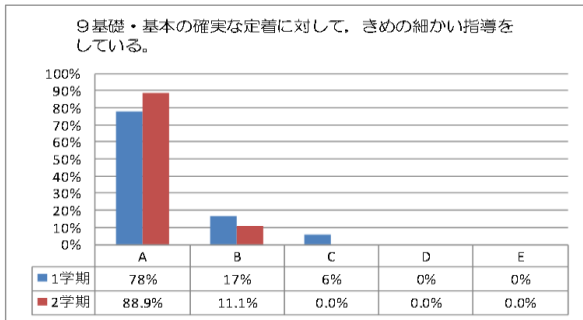
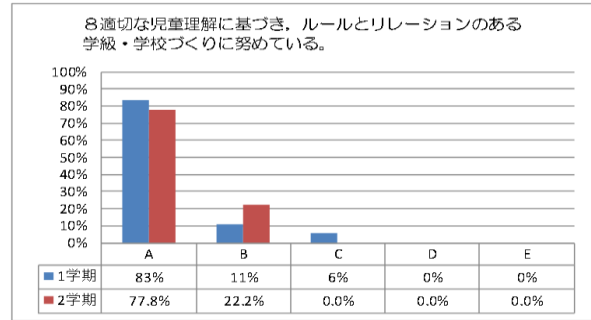
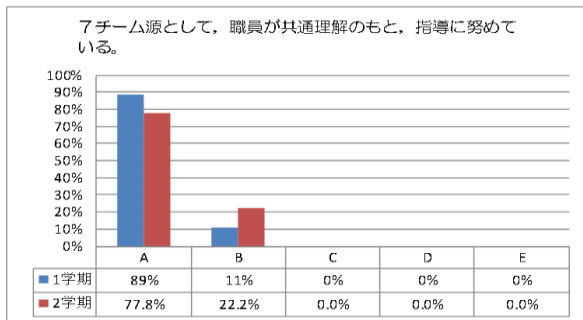
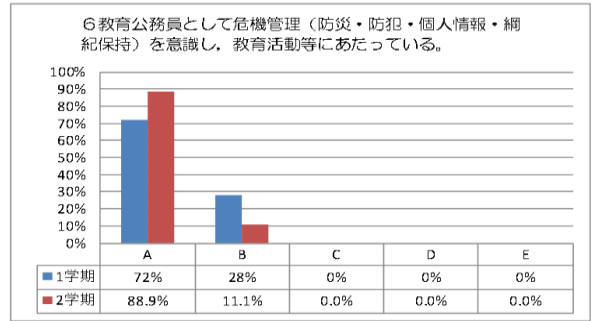
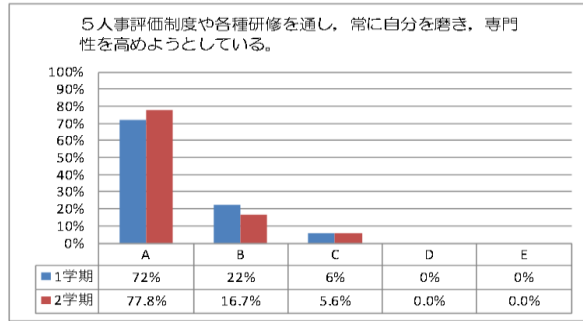
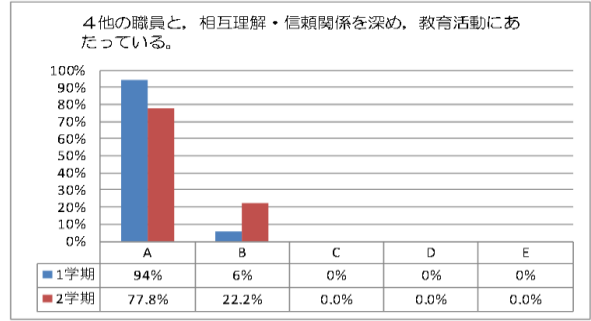
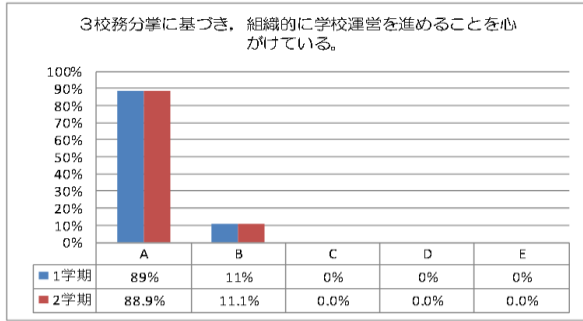
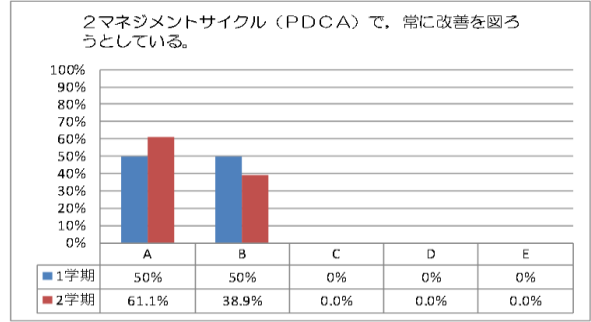
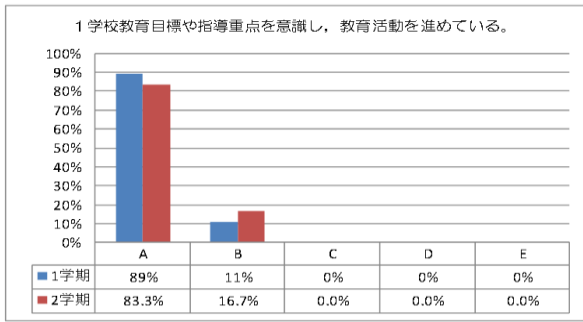
(2) 子どもの自己有用感を意識して高める指導

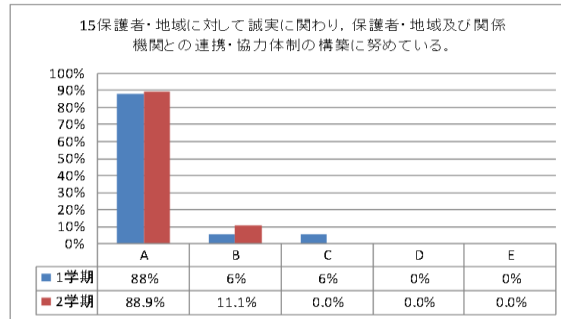
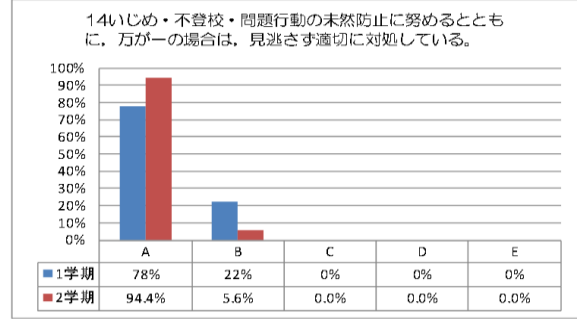
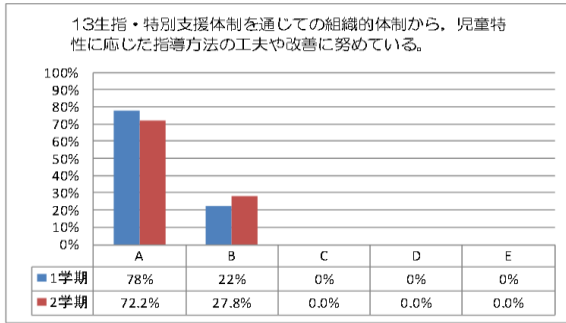
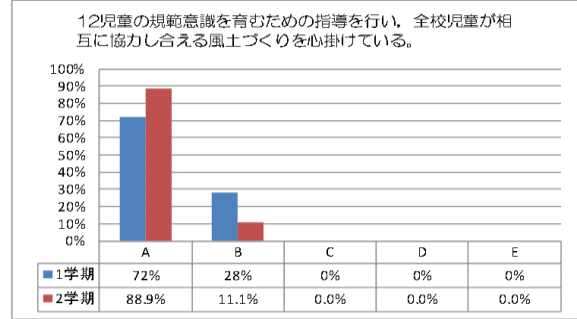
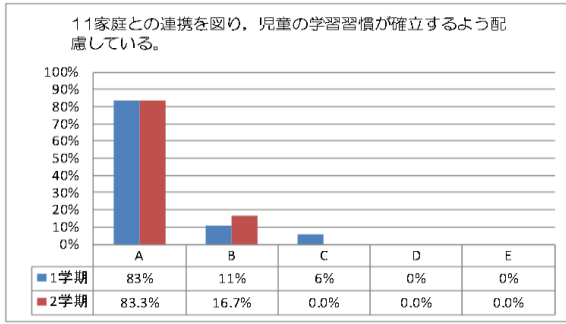
- ・より良い児童理解のもと、ふれない指導で、子どもの自己有用感を意識して高める指導をする。
- ・家での会話のきっかけとなるよう、学級だよりなどで学習や活動の内容を継続して家庭に伝える。
- ・「関わりあって共に学び、高め合う」授業づくり、できたことを認め自己有用感を高め強化する指導を推し進める。
- ・児童会縦割り活動、学習発表会等、他学年との交流の機会をさらに大切にする。などにより、子どもの否定的な面に対して、丁寧で、きめ細かな対応を進めていく。

(3) 保護者、地域に開かれた、信頼される学校づくり

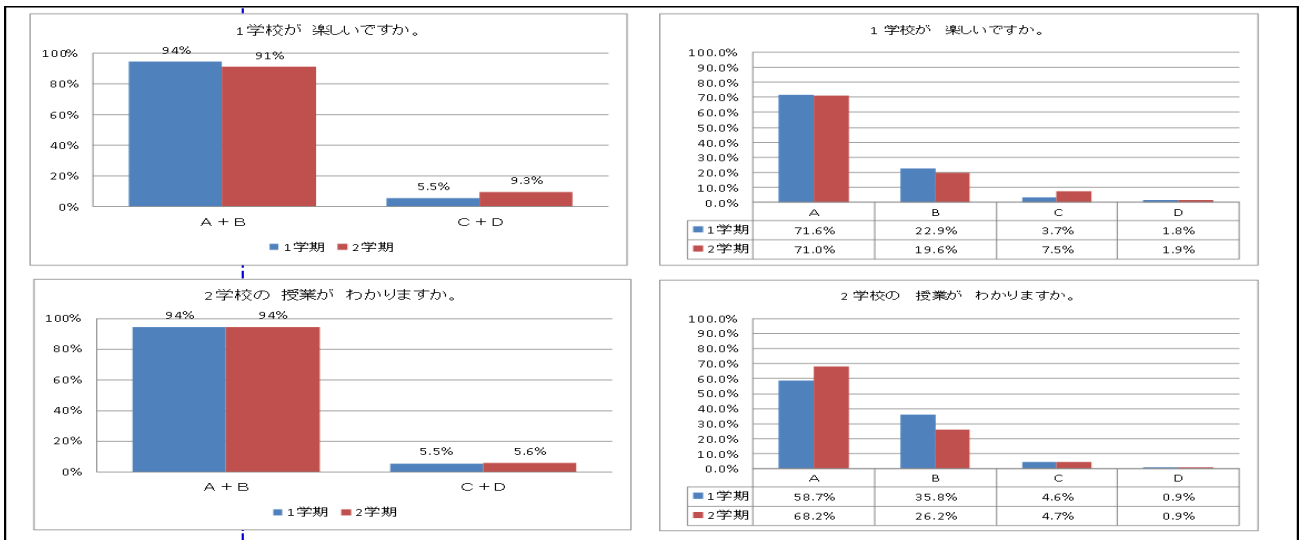
- ・保護者、地域に開かれた、信頼される学校づくりに努める。
- ・基本的な生活習慣づくりや、家庭学習の充実における家庭との連携のため、家庭・地域と今後も絶えず情報交換し、連携しながら、一緒に子どもを育てていくよう、努力していく。
- ・積極的な情報発信を行う。

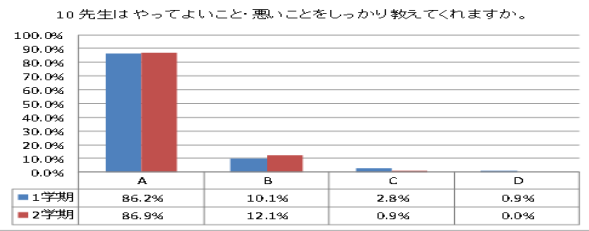
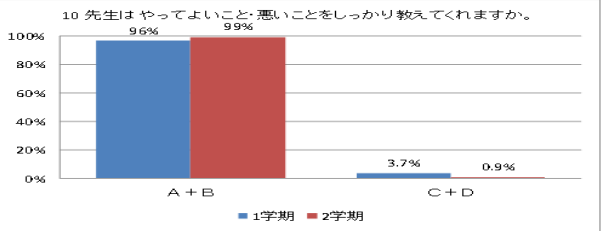
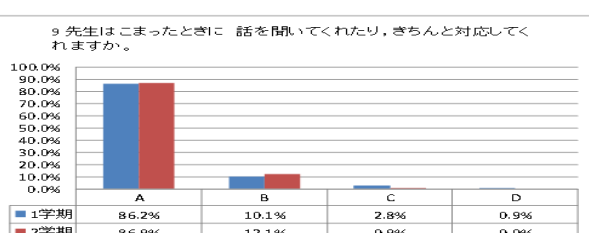
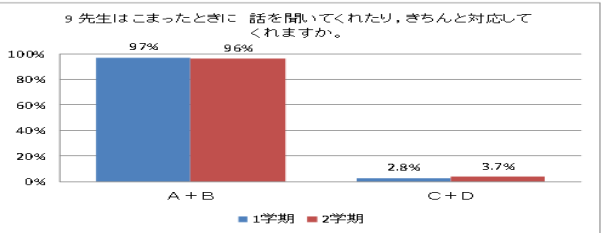
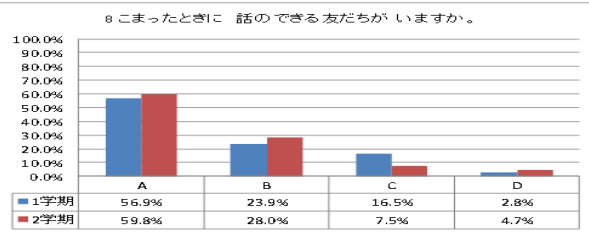
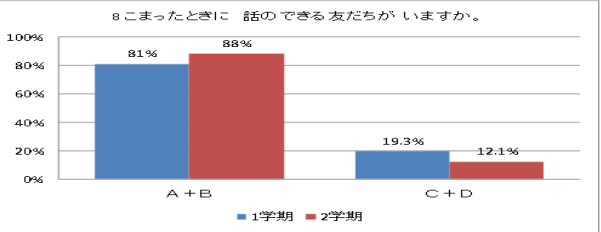
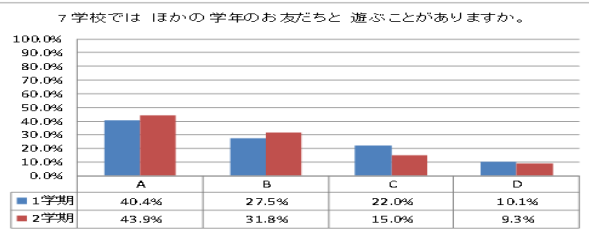
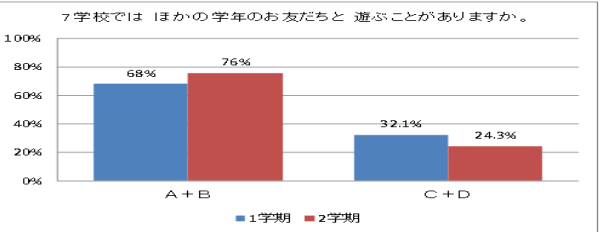
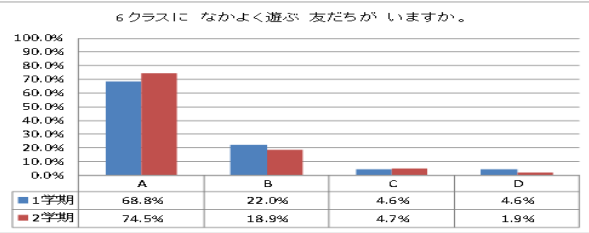
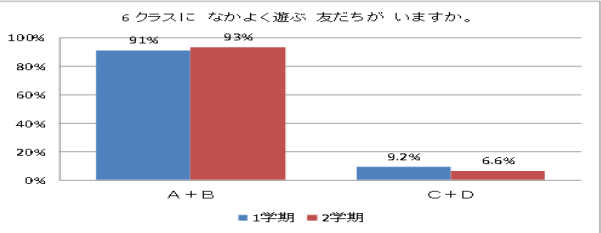
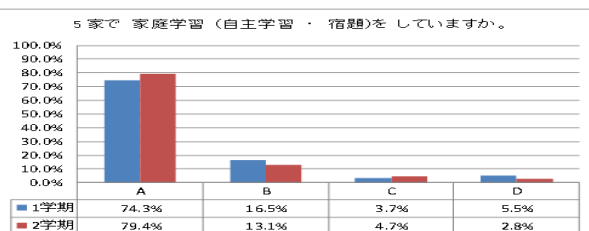
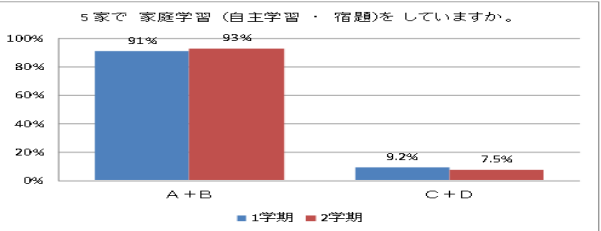
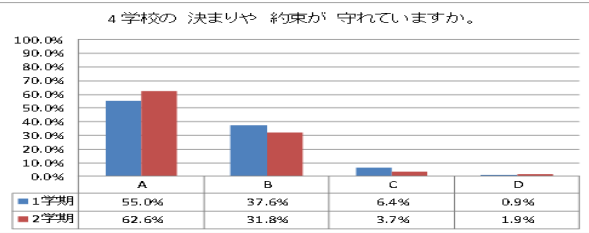
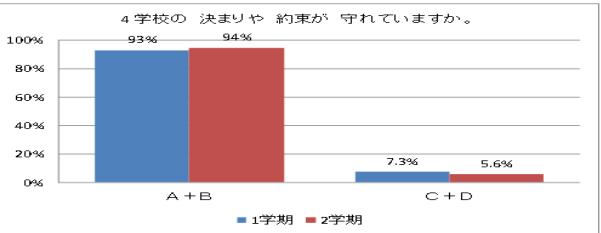
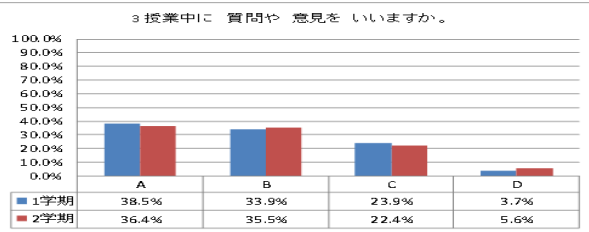
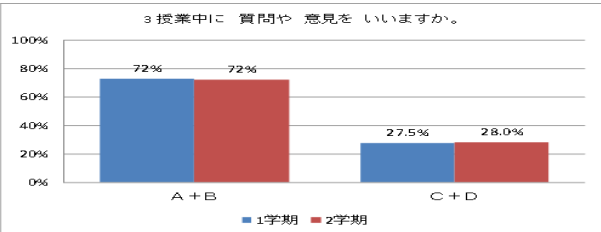
資料① 自己評価 前期・後期比較集計結果

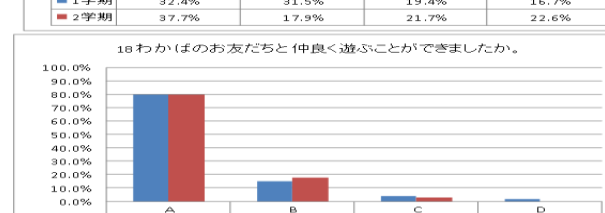
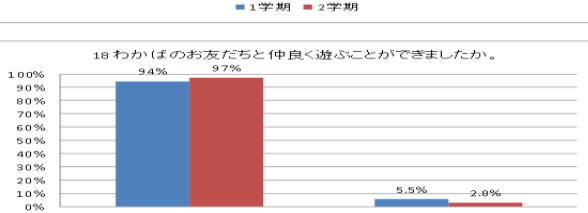
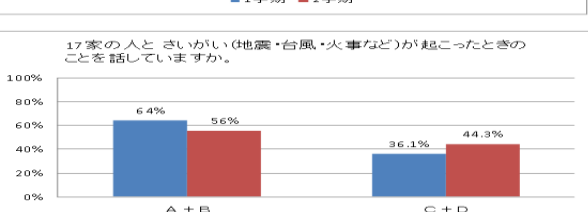
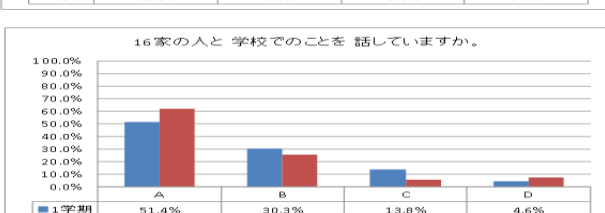
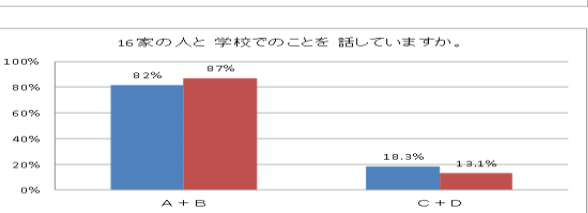
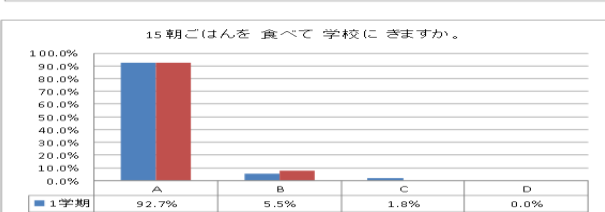
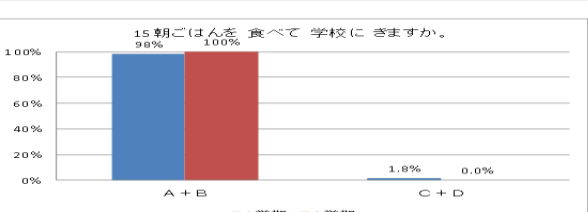
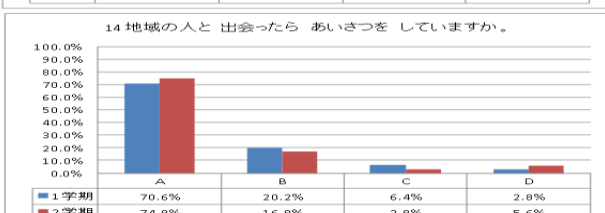
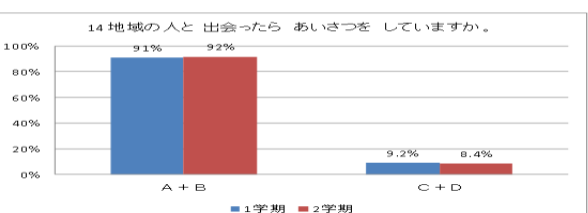
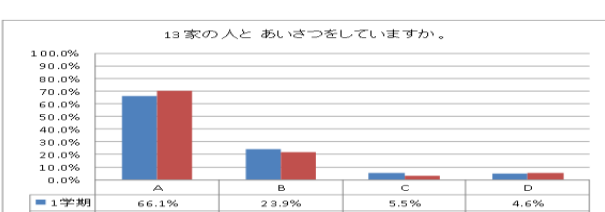
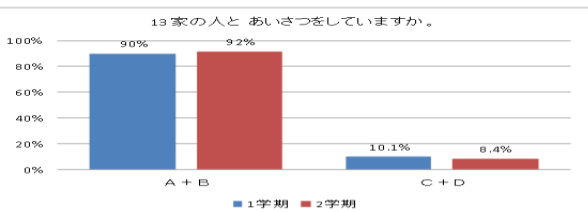
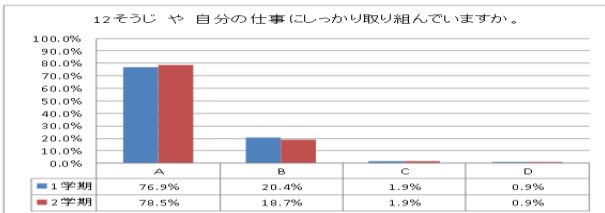
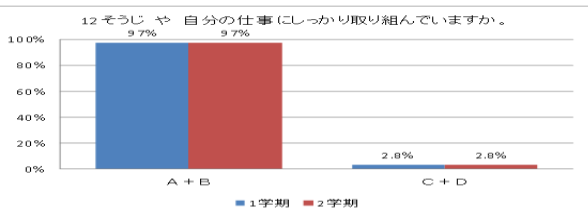
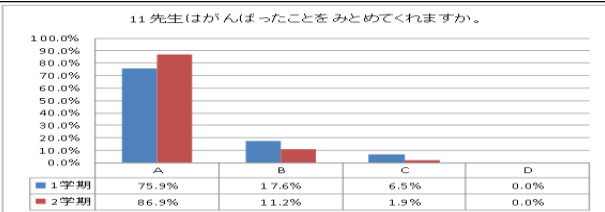
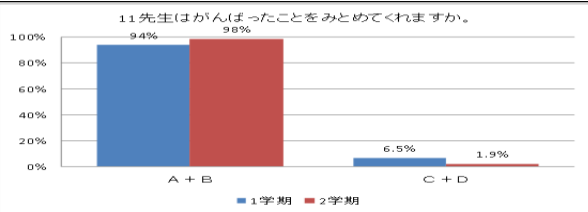




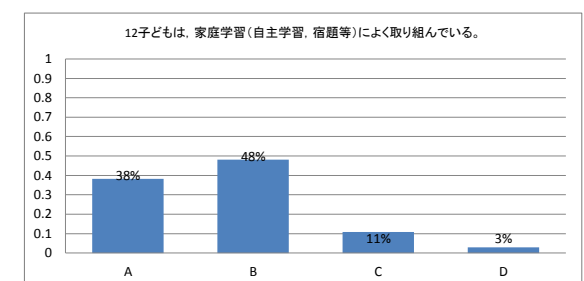
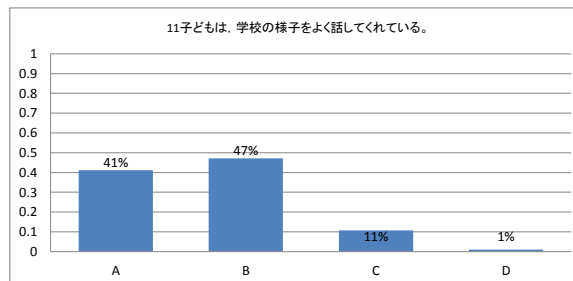
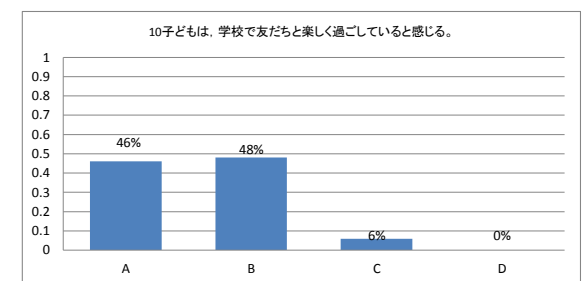
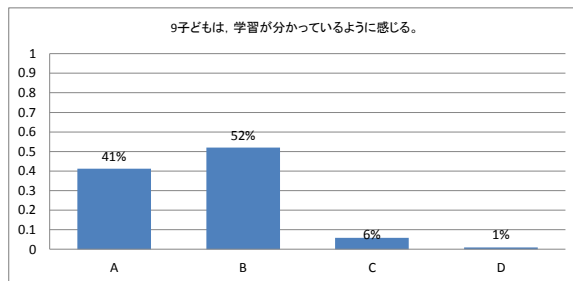
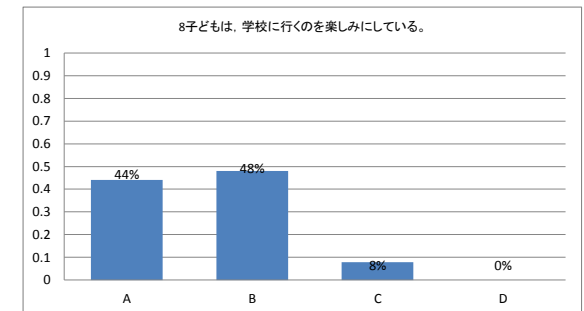
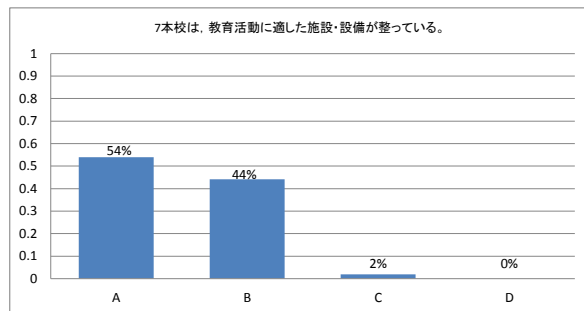
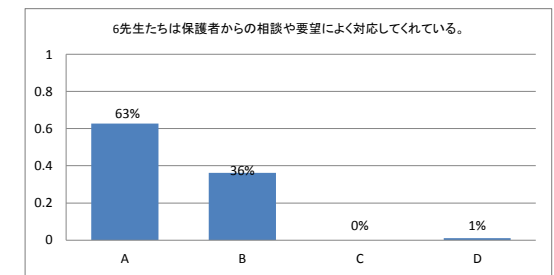
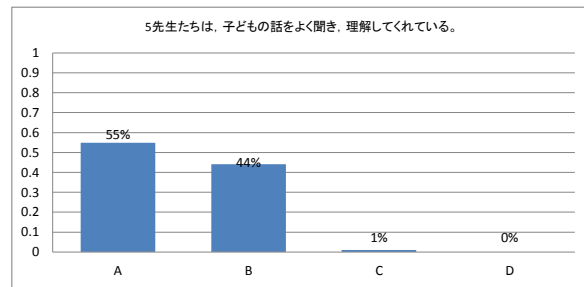
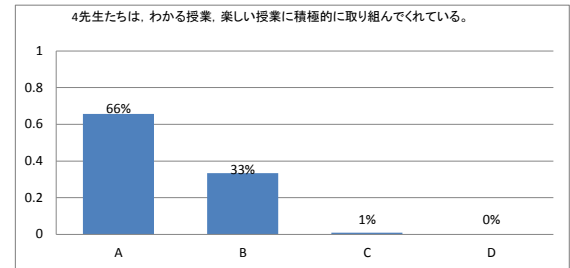
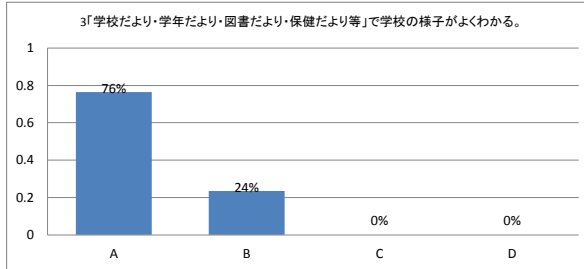
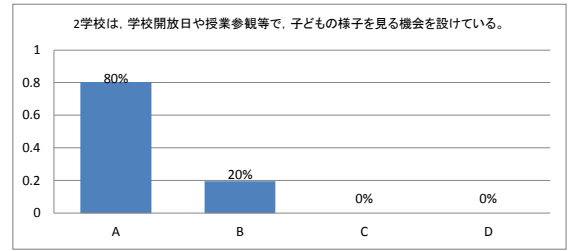
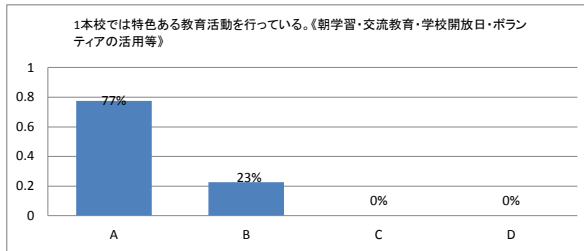
① 資料② 児童アンケート集計 前期・後期比較結果

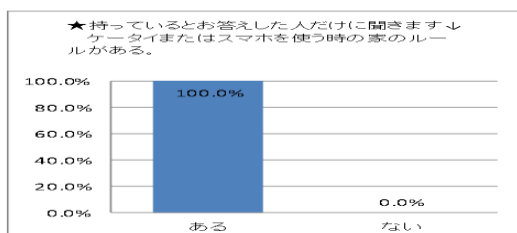
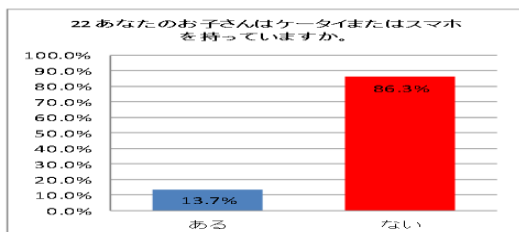
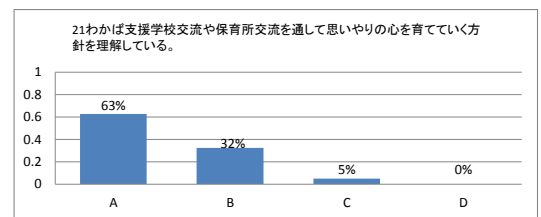
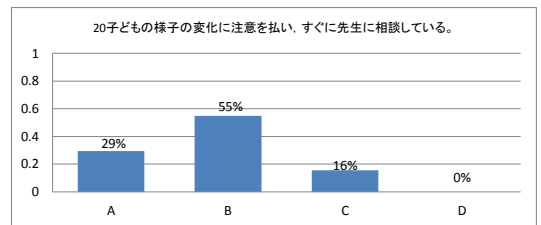
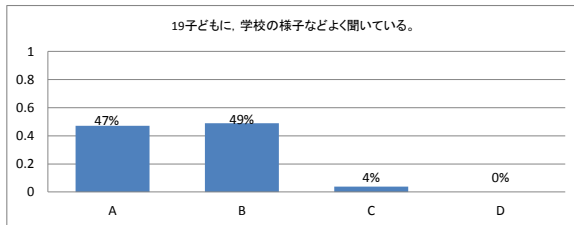
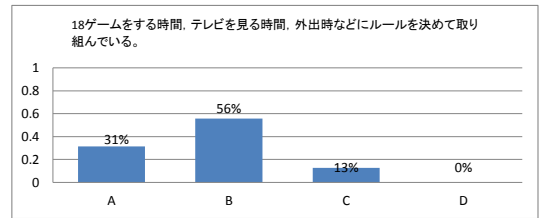
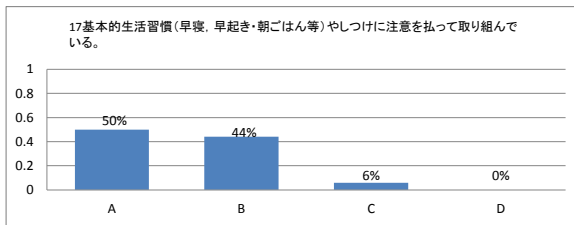
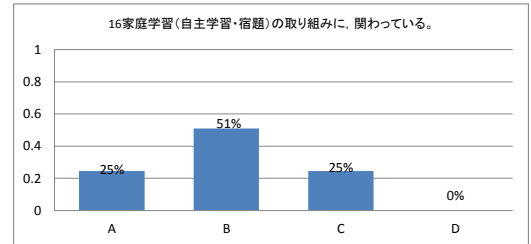
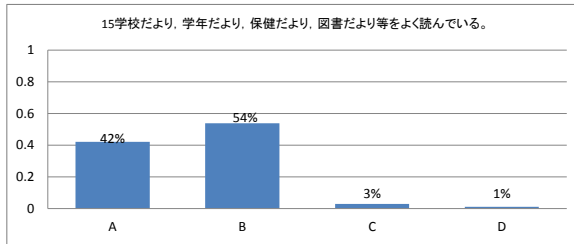
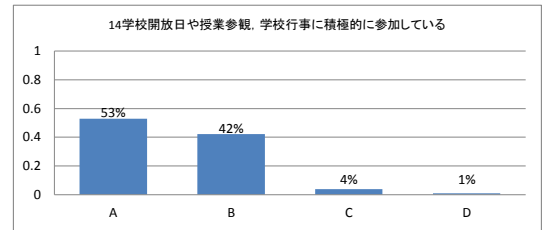
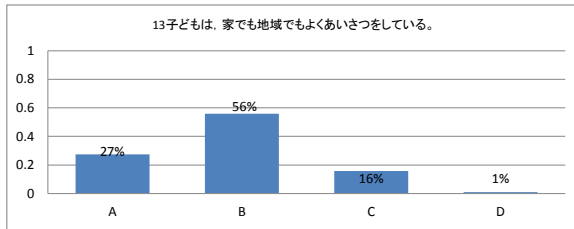






資料③ 保護者アンケート集計結果





学年別携帯電話・スマホ所持(保護者回答)

学年	1	2	3	4	5	6
所持数(人)	0	1	2	0	2	9